

企業ニュース **ダイキン工業**

(東証1部：6367) <https://www.daikin.co.jp/>

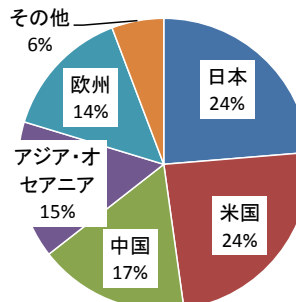
作成者：奥村義弘

空調、フッ素化学製品の世界的メーカー

1924年、大阪金属工業所として創業。内燃機関、精密機械、航空機用部品から鉄道車両用冷房ユニット、潜水艦用冷房装置などへと手を広げてきた。1951年、日本初のパッケージ型エアコンの開発に成功。1963年、現社名に変更した。1972年、ダイキンヨーロッパを設立。その後アジア・オセアニア、北米・中南米にも生産・販売拠点を広げた。19.3期から21.3期までの経営計画では、売上高2兆9,000億円、営業利益3,480億円を定量目標とする。IoT・AI時代に対応し様々な空調ソリューション事業を拡大する。さらに低GWP

(地球温暖化係数)化に向けてR32(新冷媒)採用機器の拡大、次世代冷媒の開発を加速する。18.3期の売上高構成比は空調・冷凍機事業89.6%、化学事業8.0%、その他事業2.4%。

◇顧客所在地別売上高構成比(18.3期)



(出所)ダイキン工業資料よりCAM作成

厳しい経営環境でも業績を続伸

19.3期・第2四半期累計(4-9月)の連結業績は売上高が1兆2,990億円、前年同期比11%増、営業利益が1,606億円、同8%増。空調事業の営業利益は1,405億円、同4%増。主要各地域で販売を拡大したが、米グッドマン社での工場統合や米国での物流費の上昇がマイナス要因となった。中国では都市部の伸びが鈍化しているが、内陸部の伸びが加速し高い収益性を維持した。化学事業の営業利益は176億円、同43%増。半導体・自動車市場の好調な需要を取り込んだ。

19.3期の会社計画は売上高が2兆4,800億円、前期比8%増、営業利益が2,700億円、同6%増。空調事業の営業利益は2,340億円、同5%増。空調事業では米国の工場統合に伴う費用がかさんでいたが、今後は効率性が高まろう。化学事業の営業利益は310億円、同22%増。

また11月26日に欧州の冷凍・冷蔵ショーケースメーカーのAHT社(17年売上高625億円)を881百万ユーロ(1,145億円)で買収することを発表した。冷凍・冷蔵と空調を合わせた幅広い製品群をワンストップでの提供が可能となる。食品に関する冷凍・冷蔵市場は約4兆円と言われ年5%の安定的な成長が見込める。コンビニやネット事業者向けに一段の業容拡大も見込めよう。

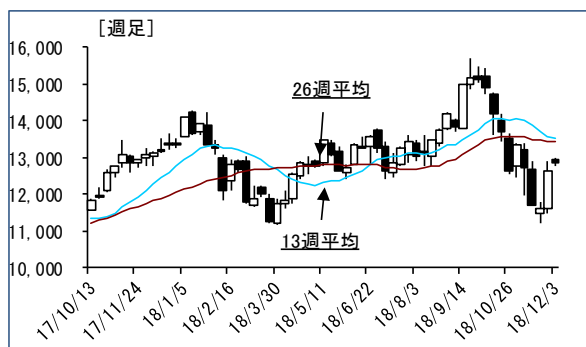
[株価動向・投資判断]

積極的な事業展開と優れた収益コントロールで持続的な利益成長が可能な企業と言えよう。

<6367 ダイキン 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	円	円
17.3	2,043,968(0)	230,769(6)	231,013(10)	153,938(12)	526.8	130.00
18.3	2,290,560(12)	253,739(10)	255,019(10)	189,051(23)	646.5	140.00
19.3 予	2,480,000(8)	270,000(6)	268,000(5)	180,000(▲5)	615.4	140.00



[主要株価指標]		(売買単位：100株)
株価(2018/12/3)		12,840 円
年初来高値(高値日)		15,670 円(18/9/19)
同 安値(安値日)		11,170 円(18/3/26)
予想 P E R (19.3 予)		20.9 倍
1株株主資本(PBR算出用)		4,798.6 円
P B R		2.68 倍
予想配当利回り		1.09 %
(1株当たり配当金140.00円)		
R O E (18.3)		15.7 %
発行済み株式数		29,311 万株